

日サ協第 140094 号
2014 年 9 月 1 日

関係各位

公益財団法人 日本サッカー協会

国際サッカー連盟（以下、「FIFA」という。）から 2014 年 7 月 4 日付け回状 1434 号をもって 2014 年ビーチサッカー競技規則の改正について通達されました。下記のとおり日本語に訳すと共に日本協会の解説を付しましたので、各協会、連盟などで、加盟クラブ、チーム、審判員等関係者に周知徹底を図られるようお願いいたします。

FIFA は改正後の新たな競技規則は通達直後から有効とすることとしていますが、日本協会、各地域/都道府県協会等が主催する試合については、9 月 1 日以降のしかるべき日（遅くとも 10 月中）から施行することとします。

2014 年ビーチサッカー競技規則の改正について

FIFA ビーチサッカー委員会は、国際サッカー評議会（以下、「IFAB」という。）の小委員会および FIFA 審判部との連携の下、ビーチサッカー競技規則を改正すると共に 4 つの FIFA 公式言語で 2014 年版を作成しました。改正競技規則の主たる要約については、別添をご参照ください。

新しいビーチサッカー競技規則はただちに効力を発し、そのすべてが FIFA のメンバー協会において適用されることとなります。

国際サッカー連盟 事務局長
ジェローム・ヴァルク

写し送付： FIFA 理事会、FIFA 審判委員会、FIFA ビーチサッカー委員会、大陸連盟

2014年ビーチサッカー競技規則の改正

第1条 ピッチ

ピッチのマーキング

[…]

コーナーキックを行うときに守備側競技者に離れる距離を確実に守らせるため、それぞれのコーナーエリアから5mの位置のゴールライン上とタッチライン上にマークを描かなければならない。

交代のときに守らなければならない最大の距離を示すため、チームベンチに近いタッチライン上で仮想のハーフウェーラインから左右それぞれ2.5mの位置にマークを描かなければならない。

キックオフのときに守らなければならない最小の距離を示すため、ベンチと反対サイドのタッチライン上で仮想のハーフウェーラインから左右5mの位置にマークを描かなければならない。

第2条 ボール

欠陥が生じたボールの交換

試合中にボールが破裂する、または、欠陥が生じた場合、プレーは停止される。

- […]
- フリーキックまたはペナルティーマークからのキックが行われている途中、違反が犯されることなく、ボールがゴールポスト、クロスバーまたは競技者に触れる前に破裂する、あるいは、欠陥が生じた場合、キックを再び行い、プレーを再開する。

第3条 競技者の数

競技者

[…]

どちらかのチームの競技者が3人未満の場合、試合は開始できない。

[…]

その他の試合

国際Aマッチにおいては、最大10名までの交代要員を置くことができる。

その他のすべての試合においては、次の条件を満たせばより多い人数の交代を行うことができる。

- 競技会規定がそのことを禁じていない
- 関係チームが交代の最大人数について合意している
- 試合前に主審・第2審判に通知されている

試合前に主審・第2審判に通知されていない場合、または、関係チームが合意しなかった場合、10人を超えて交代することはできない。

交代の進め方

交代は、ボールがインプレー、アウトオブプレーにかかわらず、いつでも行うことができる。競技者交代のためには、次の条件が遵守されなければならない。

- [...]
- 交代は、交代要員が交代して退く競技者にビブスを渡した後に、交代ゾーンからピッチに入ることにより完了する。ただし、競技者が競技規則に基づき、交代ゾーン以外の場所からピッチを出る必要があった場合を除く。この場合、交代でピッチに入る交代要員は、第3審判にビブスを渡すものとする。
- [...]

競技者と交代要員の退場

試合開始前に退場を命じられた競技者の補充は、氏名を届け出た交代要員に限って認められる。

試合開始の前後を問わず、氏名を届け出た交代要員が退場を命じられた場合、その補充はできない。

交代要員は退場になった競技者に代わることができ、退場後2分間のプレーイングタイムが経過したときに、タイムキーパーまたは第3審判（副審）の承認を得てピッチに入ることができる。ただし、2分間経過する前に得点があった場合はこの限りでなく、その場合は次の条件が適用される。

- 競技者が5人対4人のとき、人数の多いチームが得点した場合、4人のチームは5人目の競技者を補充できる。
- 両チームがともに4人または3人の競技者でプレーしているときに得点のあった場合は、両チームとも同数の競技者のままとする。
- 5人対3人または4人対3人の競技者でプレーしているとき、人数の多いチームが得点をした場合、3人のチームは1人だけ競技者を補充できる。
- 人数の少ないチームが得点した場合には、そのままの人数で試合を続ける。

第4条 競技者の用具

アンダーウェア

競技者は、政治的、宗教的または個人的なスローガンやメッセージ、あるいは、イメージ、製造社ロゴ以外の広告のついているアンダーウェアを見せてはならない。

競技者またはチームが、政治的、宗教的または個人的なスローガンやメッセージ、あるいは、イメージ、製造社ロゴ以外の広告のついているアンダーウェアを見せた場合、競技会の主催者またはFIFAにより罰せられる。

第5条 主審・第2審判

リザーブ副審

リザーブ副審が任命されているトーナメントまたは競技会において、その役割と義務はビーチサッカー競技規則に定められる諸規定に基づかなければならない。

第6条 副審

副審の権限

2人の副審(第3審判、タイムキーパー)を任命することができ、副審はビーチサッカー競技規則に基づき、その任務を遂行しなければならない。副審は、交代ゾーンと同じサイドのピッチ外で、仮想のハーフウェーラインのところに位置するものとする。タイムキーパーはタイムキーパーの机のところに座るが、第3審判は立ってでも座ってでも任務を行うことができる。

[…]

職権と任務

第3審判は：

- […]
- 退場を命じられた競技者に代わる交代要員がピッチに入ることができる時間を示す用紙をチーム役員に手渡す。
- 用具を正すためにピッチ外に出た競技者の入場を監視する。
- どのような負傷でも、ピッチ外に出た負傷した競技者の入場を監視する。
- 主審・第2審判と共に、キックオフが正しく行われるかどうか監視する。
- 主審・第2審判と共に、仮想のハーフウェーライン中央の仮想地点からのフリーキックが正しく行われるかどうか監視する。

タイムキーパーは、次により競技規則第7条の規定に対応し、試合時間を確保する。

- […]
- キックオフ、フリーキックまたはペナルティーキックが行われたのち、あるいは、主審・第2審判のシグナルに従って、または、競技者の負傷に対応するために時計を停止させ、その後、プレーを再開したのち、ストップウォッチを再スタートする。
- 第3審判がいない時、第3審判に与えられた任務を遂行する。
- 試合に関するその他の情報を提供する。

第7条 試合時間

ピリオドの終了

タイムキーパーは、各12分間のピリオドの終了を音によるシグナルで示す。主審・第2審判の1人は、タイムキーパーの音によるシグナルを聞いた後、次のことを考慮しつつ、笛を吹いてピリオドまたは試合の終了を告げる。

- フリーキックが行われるとき、または再び行われるとき、当該ピリオドは、キックが完了するまで延長される。
- ペナルティーキックが行われるとき、または再び行われるとき、当該ピリオドは、キックが完了するまで延長される。

タイムキーパーが音によるシグナルを鳴らす前にいずれかのゴールの方向にボールがプレーされた場合、主審・第2審判は、笛でピリオドまたは試合の終了を告げる前にキックの行方を待たなければならない。ピリオドまたは試合は、次のときに終了する。

- ボールが直接相手ゴールに入り、得点が認められたとき。フリーキック、ボールインバウンド、ゴールクリアランスまたはコーナーキックから直接入った場合を除き、ボールがそのチームのゴールに入ったときも得点が認められる。
- ボールがピッチの境界線を越えたとき。
- ボールが守備チームのゴールキーパーまたは他の競技者、ゴールポスト、クロスバーあるいは砂に触れたのち、ゴールラインを越えて得点となったとき。
- ボールが守備チームのゴールキーパーまたは他の競技者、ゴールポスト、クロスバーあるいは砂に触れたのち、ゴールラインを越えて得点とならなかったとき。
- ボールが相手チームのゴールラインを越える前に、ボールをプレーしていたチームの他の競技者に触れたとき。この場合、得点は認められない。
- ボールがボールをプレーしていたチームのゴールラインを越える前に、そのチームの他の競技者に触れたとき。この場合、得点は認められる。
- 得点となった場合、または、アドバンテージが適用された場合を除き、フリーキックやペナルティーキックで罰せられる違反またはフリーキックやペナルティーキックを再び行うこととなる違反が犯されていないとき。

タイムキーパーの音によるシグナルと主審・第2審判の笛の間に直接フリーキックやペナルティーキックで罰せられる違反が犯された場合、(これらのキックが行われた後)、ピリオドは次のときに終了する。

- ボールが直接相手ゴールに向かってキックされなかった。
- ボールが直接相手ゴールに入り、得点が認められたとき。
- ボールがピッチの境界線を越えたとき。
- ボールが守備側チームのゴールキーパーまたは他の競技者、ゴールポスト、クロスバーあるいはこれらのいくつかに当たったのち、ゴールラインを越えて得点となったとき。
- ボールが守備側チームのゴールキーパーまたは他の競技者、ゴールポスト、クロスバーあるいはこれらのいくつかに当たったのち、ゴールラインを越えて得点とならなかったとき。
- 得点となった場合、または、アドバンテージが適用された場合を除き、フリーキックやペナルティーキックで罰せられる違反またはフリーキックやペナルティーキックを再び行うこととなる違反が犯されていないとき。

第8条 プレーの開始および再開

キックオフ

進め方

- [...]
 - ボールは、キックされて前方に動いた直後、または、後方にプレーされた直後、砂に触れる前にキックオフを行った競技者の味方競技者によって空中で前方にけられたとき、インプレーとなる。

ドロップボール

違反と罰則

● [...]

ボールが砂に触れたのち、競技者がどちらかのゴールに向かって一度ボールをけり、ボールが直接：

- 相手競技者のゴールに入った場合、ゴールクリアランスが与えられる。
- その競技者のチームのゴールに入った場合、コーナーキックが相手チームに与えられる。

ボールが砂に触れたのち、競技者がどちらかのゴールに向かって繰り返しボールをけり：

- ボールがどちらかのゴールに入った場合、得点が認められる。

第9条

ボールアウトオブプレー

ボールは、次のときアウトオブプレーとなる。

● [...]

- 試合が屋内のピッチでプレーされていたとき、天井に当たる。

屋内のピッチ

天井の高さは、4 m以上なければならず、競技会規定に明記される。

ボールがインプレー中に天井に当たった場合、最後にボールに触れたチームの相手チームによって行われるボールインバウンドで試合を再開する。ボールインバウンドは、ボールが天井に当たった位置のグラウンドに最も近い場所で行われる(第15条 ボールインバウンド参照。)

第10条 得点の方法

得点

[...]

得点があったのち、主審・第2審判がプレーを再開する前に得点したチームが1人多い競技者数でプレーをした、または交代の手続きを不正に行ったと気付いた場合、得点を認めてはならず、仮想のペナルティーマークから違反を犯した競技者の相手競技者のチームによって行われるフリーキックでプレーを再開する(第13条：フリーキックの位置参照。)。キックオフがすでに行われた場合、違反を行った競技者に対して第3条に規定された措置を取るが、得点は認められる。主審・第2審判は、この事実を関係機関に報告する。相手チームが得点をした場合、主審・第2審判は得点を認め、違反を犯した競技者に対して第3条に規定される懲戒措置をとる。

勝利チーム

試合中により多くの得点をしたチームを勝ちとする。両チームが同点または共に無得点の場合、試合は引き分けである。

競技会規定

試合またはホームアンドアウェーの対戦が引き分けで終わり、競技会規定として勝者を決定する必要がある場合、次の方法のみが勝利チームを決定する進め方として認められる。

- アウェーゴール・ルール
- 延長戦
- ペナルティーマークからのキック

リーグの試合では、ポイントは次のように与えられる。

- 3ピリオド終了での勝利：勝利チームに3ポイント
- 延長戦終了での勝利：勝利チームに2ポイント
- ペナルティーマークからのキックでの勝利：勝利チームに1ポイント

これらの進め方は、「試合またはホームアンドアウェーの対戦の勝者を決定する方法」の項に規定される。

第12条 ファウルと不正行為

直接フリーキックで罰せられるファウル

競技者が次の反則のいずれかを不用意に、無謀に、または過剰な力で犯したと主審・第2審判が判断した場合、フリーキックが相手チームに与えられる。

- 相手競技者をける、またはけろうとする。
- 相手競技者をつまずかせる
- 相手競技者に飛びかかる
- 相手競技者をチャージする
- 相手競技者を打つ、または打とうとする
- 相手競技者を押す
- 相手競技者にタックルする

競技者が次の反則のいずれかを犯した場合も、フリーキックが相手チームに与えられる。

- 相手競技者を押さえる、あるいは、相手競技者がシザースキックまたはオーバーヘッドキックを行うことを妨げる
- 相手競技者につばを吐く、または、意図的に砂を投げる
- ボールを意図的に手または腕で扱う（ゴールキーパーが自分のペナルティーエリア内にあるボールを扱う場合を除く）

[…]

ペナルティーキックで罰せられるファウル

[…]

相手競技者のフリーキックの進行中に、ボールがゴールポスト、クロスバー、ゴールキーパーまたは砂に触れる前に、守備側競技者がフリーキックの位置と両コーナーフラッグの間のペナルティーエリア内にあるボールに触れた場合もペナルティーキックが与えられる。

仮定のハーフウェーライン中央の仮定地点から行われるフリーキックまたは反則が犯されたところから行われるフリーキックで罰せられるファウル

a) 仮定のハーフウェーライン中央の仮定地点からのフリーキック

次の場合、仮定のハーフウェーライン中央の仮定地点から行われる直接フリーキックが相手チームに与えられる：

- ボールがインプレー中、一方のチームの競技者が自分たちのペナルティーエリア内で4秒以上ボールをコントロールする。
- ゴールキーパーが味方競技者からボールを受けてペナルティーエリア内で手または腕でプレーし、その後、味方競技者が体のいかなる部位でボールをプレーして戻したボールを、同じペナルティーエリア内で意図的に手または腕で再びプレーする。ただし、この間に相手競技者が触れた場合を除く。
- ボールがインプレー中、ゴールキーパーが手に持ったボールを放して砂に触れる前に空中でキックする。
- ゴールキーパーがボールを自分のペナルティーエリアの外でプレーしたのち、自分のペナルティーエリア内に戻り、体のいかなる部位であってもボールをプレーする、または、触れる。
- ゴールキーパーが保持していたボールを放したのち、自分のペナルティーエリア内で再び手でボールに触れる。この間に他の競技者がボールに触れる場合を除く。
- 競技者が自分のハーフ内で危険な方法でプレーをする。
- 競技者が自分のハーフ内で意図的に相手競技者の進行を妨げる。
- 競技者が自分のハーフ内で、相手競技者に対して犯した場合ペナルティーキックが与えられる(意図的なハンドリングを除く)10項目のいずれかの反則を味方競技者に対して犯す。
- これまで第12条に規定されていないもので、競技者を警告する、または退場させるためにプレーを停止することになる反則を競技者が自分のハーフ内で犯す。

b) 反則の犯された場所から行われるフリーキック

次の場合、反則が犯された場所から行われるフリーキックが相手チームに与えられる(第13条「フリーキックの位置」参照。)：

- 競技者が相手競技者のハーフ内で危険な方法でプレーする。
- 競技者が相手競技者のハーフ内で意図的に相手競技者の進行を妨げる。
- (相手) ゴールキーパーが自分のペナルティーエリア内にいてインプレー中のボールを手で投げるのを、競技者が妨げる。
- 競技者が相手競技者のハーフ内で、相手競技者に対して犯した場合ペナルティーキックが与えられる(意図的なハンドリングを除く)10項目のいずれかの反則を味方競技者に対して犯す。
- これまで第12条に規定されていないもので、競技者を警告する、または、退場させるためにプレーを停止することになる反則を競技者が相手競技者のハーフ内で犯す。

懲戒の罰則

[…]

競技者と交代要員のみレッドカードまたはイエローカードを示すことができる。試合が始まったならば、これらのカードはピッチ上で誰にも分かるように示される。そのほかの場合、主審・第2審判は、口頭で競技者とチーム役員に懲戒の罰則が科されたことを伝える。

主審・第2審判は、試合開始前にピッチの設置された施設に入ったその時からその場所を離れるまで、懲戒の罰則を行使する権限を持つ。

[…]

警告となる反則

競技者は、次の7項目の反則のいずれかを犯した場合、警告される。

- 反スポーツ的行為
- 言葉または行動による異議
- 繰り返しビーチサッカー競技規則に違反する
- プレーの再開を意図的に遅らせる
- (守備側競技者が、) コーナーキック、キックオフ、ボールインバウンドまたはフリーキックでプレーが再開されるときに規定の距離を守らない。
- 主審・第2審判の承認を得ず、ピッチに入る、復帰する、または交代の進め方に違反する
- 主審・第2審判の承認を得ず意図的にピッチから離れる

交代要員は、次の4つの反則のいずれかを犯した場合、警告される。

- 反スポーツ的行為
- 言葉または行動による異議
- プレーの再開を意図的に遅らせる
- 交代の進め方に反してピッチに入る

退場となる反則

競技者また交代要員は、次の8つの反則のいずれかを犯した場合、退場を命じられる。

- […]
- 相手競技者またはその他の者に意図的に唾をはく、あるいは、砂を投げる。
- 相手競技者がフリーキックを行う場所と自分のチームのゴールポストの間で、ボールがゴールポスト、クロスバー、ゴールキーパーまたは砂に触れる前に、ボールに触れる。
- […]

交代要員は、次の反則を犯した場合、退場となる。

- (相手チームの) 得点または決定的な得点の機会を阻止する。

決定

[…]

2. 相手競技者がシザーズキック、オーバーヘッドキックを行うのを妨げた競技者を罰するために、主審・第2審判は、次の基準を考慮するものとする。

- ボールがシザーズキック、オーバーヘッドキックを行っている、または、行おうとしている競技者のコントロール下にあるとき、相手競技者がその競技者に触れた場合、その競技者の相手にフリーキックまたはペナルティーキックが与えられる。

- ボールがシザーズキック、オーバーヘッドキックを行っている、または、行おうとしている競技者のコントロール下にあるとき、相手競技者がそのボールに触れる、または、プレーした場合、その競技者の相手にフリーキックまたはペナルティーキックが与えられる。
 - ボールがシザーズキック、オーバーヘッドキックを行っている、または、行おうとしている競技者のコントロール下にあるとき、相手競技者がその競技者に触れ、または、ボールをプレーした結果、その相手競技者がキックを行った競技者に打たれた場合、主審・第2審判はキックした競技者を罰せず、そのキックを行うことを妨げた、または妨げようとした相手競技者を罰する。
 - ボールがシザーズキック、オーバーヘッドキックを行っている、または、行おうとしている競技者のコントロール下にないとき、相手競技者がボールに触れ、または、ボールにプレーしても、相手競技者はいかなる反則も犯していない。
 - ボールがシザーズキックやオーバーヘッドキックを行っている、または、行おうとしている競技者のコントロール下にないとき、その競技者がキックを行うときに相手競技者を打った場合、その競技者は反則を行ったことで罰せられる。
3. 競技者はキックを行っている競技者に触れなければ、シザーズキックやオーバーヘッドキックを守備するために、グラウンドから垂直に飛ぶことができる。
 4. 主審・第2審判を騙す意図をもってピッチ上で行われたいかなるシミュレーションは、反スポーツ的行為で罰せられなければならない。
 5. ボールを遠くへける、または、体でブロックをして意図的に時間を浪費する、あるいは、相手競技者がボールをプレーすることを妨げることは危険な方法でプレーしたとして罰せられるものとする。主審・第2審判は、アドバンテージが適用できなかった場合、プレーを停止し、相手競技者のハーフで反則が犯されたならば反則が犯された場所から、反則を犯したチームのハーフ内で反則が犯されたならば仮想のハーフウェーライン中央の仮想地点から、相手のフリーキックで試合を続ける。

第13条 フリーキック

フリーキック

フリーキックは、次の進め方によって行われる。

- [...]
- フリーキックがそのチームのペナルティーエリア内から行われる場合、ボールは、ペナルティーエリアを直接けりだされたのちインプレーとなる。
- [...]

フリーキックの位置

- [...]
- b) 自分のハーフからのフリーキックまたは仮想のハーフウェーライン中央の仮想地点からのフリーキック

反則を犯していないチームのハーフまたは仮想のハーフウェーライン中央の仮想地点から行われるフリーキックの場合、いずれの守備側競技者は：

- ピッチ上で
- ボールがインプレーになるまで、ボールから5 m以上離れ、自分のペナルティーエリアにすることができるゴールキーパーを除き、ボールとコーナーフラッグの間の仮想エリアの外にいないなければならない。

反則を犯していないチームのハーフまたは仮想のハーフウェーライン中央の仮想地点から行われるフリーキックの場合、キックを行う競技者の味方競技者は：

- ピッチ上で
- キックを行う競技者を除いて、ボールとコーナーフラッグの間の仮想エリアの外にいないなければならない。

進め方

- […]
- フリーキックは、主審・第2審判がフリーキックを行うようシグナルしてから4秒以内に行わなければならない。
- […]

違反と罰則

一方のチームが自分たちのハーフまたは仮想のハーフウェーライン中央の仮想地点からフリーキックを行っているときに、主審・第2審判のうちの1人がキックを行うようシグナルしたのちボールがインプレーになって、ボールがゴールポスト、クロスバー、ゴールキーパーまたは砂に触れる、あるいは、フリーキックのときに置かれたボールとコーナーフラッグの間のエリアからボールが出る前に、(相手ゴールキーパーを除く)競技者がボールに触れた場合、反則となる。

- 守備側競技者が自身のペナルティーエリアの外で反則を犯した場合、主審・第2審判がアドバンテージ条項を適用しないならば、その競技者のチームは、ボールが触れられた場所からのフリーキックで、または、その競技者が自分のペナルティーエリアでボールに触れた場合はペナルティーキックで罰せられる。

反則がキックを行った競技者の味方競技者によって相手競技者のハーフ内で犯され、主審・第2審判はアドバンテージ条項を適用しない場合、相手チームにボールが触れられた場所から行われるフリーキックが与えられる。ボールがその競技者のチームのハーフで触れられた場合、仮想のハーフウェーライン中央の仮想地点から行われるフリーキックが与えられる(第13条:「フリーキックの位置」参照。)。フリーキックがけられるときにボールがあった地点と自分のチームのゴールポストの間のエリアにあるボールに守備側競技者が触れなければ、主審・第2審判はいかなる懲戒措置をとらない。もし触れた場合、その競技者は、決定的な得点の機会を阻止したことにより退場が命じられる。

そのチームのハーフ、または仮想のハーフウェーライン中央の仮想地点から行うフリーキックが行われているとき、主審・第2審判の一方がフリーキックを行うためのシグナルを示したのちボールがインプレーになる前に、相手競技者がボールと自分との最小距離を守らず、ボールとコーナーフラッグの間のエリアに入った場合：

- 主審・第2審判がアドバンテージ条項を適用せず、フリーキックまたはペナルティーキックで罰せられる他の違反が犯されていないならば、違反をした競技者を警告し、キックを再び行う。フリーキックまたはペナルティーキックで罰せられる違反が犯されていた場合、主審・第2審判は、最初の違反を罰するか、その後に犯されたものを罰するかを決定する。(侵入した)後に犯された違反が懲戒の措置を必要とされるものであった場合、主審・第2審判は2つ目の警告を示し、または、必要に応じ、直接レッドカードを示す。
- [...]

守備側チームがそのチームのペナルティーエリアからフリーキックを行ったが、ボールが直接エリアから出なかった場合：

- キックを再び行うが、4秒のカウントはリセットされず、競技者がフリーキックを再び行う準備ができてから残りの秒数のカウントを続ける。

フリーキックを行うチームが4秒以上かけた場合：

- 守備側チームのハーフ内だった場合、主審・第2審判は相手チームに、試合を(フリーキックで)再開する場所から行うフリーキックを与える。フリーキックが(攻撃側)チームハーフ内から、または、仮想のハーフウェーライン中央の仮想地点から行われる場合、仮想のハーフウェーライン中央の仮想地点から行うフリーキックで、試合を再開する(第13条：「フリーキックの位置」参照。)
- [...]

第14条 ペナルティーキック

違反と罰則

- [...]
- ペナルティーキックが行われようとしているとき、ボールが事前に特定された競技者の味方競技者によってキックされた場合：
- 主審・第2審判は、プレーを停止し、その競技者を反スポーツ的行為により警告し、ペナルティーマークから行われる守備側チームのフリーキックで試合を再開する(第13条：「フリーキックの位置」参照。)
 - [...]

ペナルティーキックが行われたのち、

- [...]
- ボールがインプレー中に、ゴールポスト、クロスバーまたは競技者に触れる前に、破裂する、または欠陥生じた場合：
- キックは、再び行われる。

第15条 ボールインバウンド

キックイン

ボールをけろうとするとき：

- ボールはピッチを出た地点またはピッチ外でその地点から25cm以内のグラウンド上に静止していなければならない。

- キッカーは、ける準備ができてから4秒以内にボールをける。

戦術的な理由でプレーの再開を遅らせた場合、主審・第2審判は、競技者がキックインする準備ができているかどうかにかかわらず、笛を吹いて4秒のカウントを始める。

スローイン

ボールを投げるとき、スローインを行う競技者は：

- […]
- 準備ができてから4秒以内にボールを投げ入れる。

戦術的な理由でプレーの再開を遅らせた場合、主審・第2審判は、競技者がスローインする準備ができているかどうかにかかわらず、笛を吹いて4秒のカウントを始める。

第16条 ゴールクリアランス

進め方

- 守備側チームのゴールキーパーは、ゴールクリアランスをする準備ができてから4秒以内に行う。
- ボールは、守備側チームのゴールキーパーによってペナルティーエリア外に直接投げ出されたときにインプレーとなる。

戦術的な理由でプレーの再開を遅らせた場合、主審・第2審判は、ゴールキーパーがゴールクリアランスする準備ができているかどうかにかかわらず、笛を吹いて4秒のカウントを始める。

違反と罰則

ボールがゴールクリアランスから直接ペナルティーエリア外に投げられなかった場合：

- ゴールクリアランスを再び行うが、4秒のカウントはリセットされず、ゴールキーパーが再び行う準備ができてから残りの秒数のカウントを続ける。
- […]

第17条 コーナーキック

進め方

- […]
- キックを行う競技者は、ける準備ができてから4秒以内にコーナーキックを行う。

戦術的な理由でプレーの再開を遅らせた場合、主審・第2審判は、競技者がコーナーキックを行う準備ができているかどうかにかかわらず、笛を吹いて4秒のカウントを始める。

試合またはホームアンドアウェーの対戦の勝者を決定する方法

アウェーゴール、延長戦および仮想のペナルティーマークからのキックは、試合が引き分けに終わったのち、勝者となるチームを決めることが競技会規定によって要求されているときに勝者を決定する3つの方法である。延長戦と仮想のペナルティーマークからのキックは試合の一部ではない。しかし、試合中に取られたいかなる懲戒の措置は継続して有効となる。

アウェーゴール

競技会規定には、ホームアンドアウェー方式で競技する場合で第2戦後に合計ゴール数が同じであるとき、アウェーのグラウンドで得点したゴール数を2倍に計算する規定を設けることができる。

仮想のペナルティーマークからのキック

- […]

進め方

- […]
- 次の条件に従って、両チームが3本ずつのキックを行う。
- キックは、両チーム交互に行われる。
- 相手競技者数と等しくなるように競技者数を減らすために除外された、例えばテクニカルエリアにいるゴールキーパーは、いつでもゴールキーパーと交代することができる。
- ペナルティーマークからのキックが始まる前に、主審はピッチの反対 HALF 内に両チームから同数のペナルティーキックを行う資格のある競技者がとどまっていることを確認しなければならない。

ビーチサッカー競技規則の解釈と主審・第2審判のためのガイドライン

第1条

ピッチのマーキング

破線でピッチをマークすることは、認められない。

- 競技者がピッチに許可されていないマークをつけた場合、反スポーツ的行為で警告されなければならない。試合中に主審・第2審判がそれを見つけ、アドバンテージ条項を適用しないならば、試合を停止し、違反した競技者を反スポーツ的行為で警告し、違反が犯されたときにボールが相手 HALF 内にあった場合、試合を停止したときにボールのあった位置から行われる相手チームのフリーキックでプレーを再開する、あるいは、違反を犯したチームの HALF 内にボールがあった場合、仮想の HALF ウェーライン中央の仮想地点から行うフリーキックでプレーを再開する（第13条：「フリーキックの位置」参照。）。

第2条： ボール

別のボール

ボールがインプレー中、別のボールがピッチに入った場合、主審・第2審判はそのボールがプレーに干渉するならば、試合を停止しなければならない。主審・第2審判のいずれかが、正しい地点を決定するために第3審判からの援助を得て、仮想のハーフウェーライン中央の仮想地点でボールをドロップしてプレーを再開する。

ボールがインプレー中に、別のボールがピッチに入ってプレーに干渉しない場合、主審・第2審判は、できる限り早い機会にそれを取り除かなければならない。

第3条 競技者の数

競技者の退場

- 競技者が2つ目の警告またはその一つで退場が命じられる反則を犯したが、アドバンテージが適用されたために、退場が命じられなかった。しかし、アドバンテージ適用後、退場が命じられる前にその競技者のチームが失点した場合、得点の前に反則が犯されたことになるので、そのチームは競技者の数を減らさない。
- 1人の競技者がプレーのピリオド間、延長戦の開始前に、2つ目の警告でも直接であっても、退場が命じられた場合、そのチームは次のピリオドまたは延長戦を1人少ない競技者で始めなければならない。

第4条 競技者の用具

その他の用具

ヘッドカバーを着用する場合、それは

- 黒または、ジャージーまたはシャツの主たる色と同じでなければならない。（同一チームの競技者が着用する場合、同色のものとする）
- 競技者の用具として、見苦しくない外見であること
- ジャージーまたはシャツと一体となっていない
- 着用している競技者または他の競技者に危険を及ぼすもの（例えば、首の首周りが開閉する構造となっている）であってはならない
- 表面から突き出ている部分（突起物）があってはならない

第5条 主審および第2審判

ボールがインプレー時の4秒カウント

ボールがインプレー中、自分たちのペナルティーエリアでチームがボールをコントロールするごとに、主審・第2審判のひとりには4秒のカウントをはっきりと見えるように行わなければならない。

プレーの再開

主審・第2審判は特にプレーの再開が迅速に行われるようにし、(ボールインバウンド、ゴールクリアランス、コーナーキックまたはフリーキック)一時的な停止後、戦術的な理由で再開を遅らせることを許してはならないものとする。そのようなことがある場合、笛を用いて4秒カウントを始める。4秒のカウントを行わない再開(キックオフやペナルティーキック)の場合、競技者は1人でも複数でも警告される。

第12条 ファウルと不正行為 ゴールキーパーによる反則

ゴールキーパーは、次の状況下でピッチの自分自身のハーフ内でボールに触れることは認められない:

- 自分のペナルティーエリアの外でボールをプレーした後、ペナルティーエリア内に戻り、体のいかなる部位でボールに触れるまたはプレーする。

危険な方法でのプレー

危険な方法でプレーするとは、ボールをプレーしようとするとき、自分自身や相手競技者を負傷させることになるすべての行為である。この反則は、近くにいる相手競技者が負傷を恐れてプレーできないようにすることである。

第14条 ペナルティーキック 進め方

相手競技者を混乱させるために、ペナルティーキックの助走中にフェイントすることはビーチサッカーの一部であり、認められる。しかしながら、競技者が一旦助走を完了した後にボールをけるフェイントについては、第14条に違反するとみなされ、それを行った競技者は反スポーツ的行為により警告されなければならない。

第15条 ボールインバウンド 進め方 - 違反

ボールインバウンドからボールがピッチに入らなかった場合、主審・第2審判は相手チームの競技者にボールインバウンドを行うように指示する。

第16条 ゴールクリアランス 進め方 - 違反

ゴールクリアランスを行うとき、ゴールキーパーが自分のペナルティーエリアの中からボールを放さなかった場合、主審・第2審判はゴールクリアランスを再び行うよう命じる。しかし、ゴールキーパーが再び行う準備ができたならば、4秒のカウントは一時停止したところから再開される。

主審・第2審判が4秒カウントを始めるとき、ゴールキーパーが手でボールを持っている必要はないが、その場合、4秒のカウントの開始は笛で示さなければならない。

試合またはホームアンドアウェーの対戦の勝者を決定する方法

仮想のペナルティーマークからのキック

進め方 - 違反

- 仮想のペナルティーキックを行っているとき、主審・第2審判はピッチ上での通信機器の使用を認めてはならない。競技会規定がカメラの使用を許可している場合、ピッチの交代ゾーンの反対側の仮想のハーフウェーラインの延長上で、タッチラインから2m以上離れたところに位置するものとする。

<日本協会の解説>

FIFAは2013年9月にFIFAビーチサッカー・ワールドカップを開催し、ビーチサッカーをより良いものとするために、その期間においても、また、その後2013年11月22～23日にドバイで開催されたFIFAビーチサッカー・ワークショップにおいても、ビーチサッカー競技規則に関する様々な検討を行った。

これらの検討の結果、サッカーのように国際サッカー評議会（IFAB）のみによるのではなく、フットサルの競技規則の改正と同様、IFABの小委員会およびFIFA審判部との連携の下、ビーチサッカー競技規則を改正した。もっとも、本回状の文章には不備があり、今後、ビーチサッカー競技規則の冊子が発行される際に、修正されていくものと推測される。本通達では括弧内の文言で、その不備を補っている。

改正の主たる考え方は、1. サッカー、フットサルといったFIFAのサッカーファミリーの競技としての競技規則の精神、競技規則の体裁を同じくする 2. サッカーと比べ小さなピッチ、各チーム5人でプレーされるサッカーとして、フットサル競技規則と同様の適用を図る 3. ビーチサッカーの特徴をより引き出すところにある。この考え方にに基づき、今回の改正を次のとおり、解説する。

1. FIFAのサッカーファミリーの競技としての競技規則の精神、競技規則の体裁を同じくする。

① ピッチのマーキング

- ・ コーナーエリアからの5mの位置（サッカーは、9.15m）のゴールライン上とタッチライン上にマークを描く。
- ・ 競技者がピッチに許可されていないマークをつけた場合、反スポーツ的行為で警告される。

② 欠陥が生じたボールの交換

試合中にボールが破裂する、または、欠陥が生じた場合、プレーは停止され、交換される。フリーキックやペナルティーキック時の欠陥発生の対応もサッカー、フットサルと同様。

- ③ 試合開始前の競技者退場
退場競技者の補充は氏名を届け出た交代要員に限って認められ、交代要員の退場は補充できない。
- ④ ヘッドカバー
宗教上の対応に配慮し、サッカーやフットサルと同様、その他の用具としてヘッドカバーを一定の条件下、着用を認めることとした。
- ⑤ アンダーウェア
競技者は政治的、宗教的、個人的なスローガンやメッセージ等のついているアンダーウェアを見せてはならず、見せた場合、競技会の主催者またはFIFAにより罰せられる。
- ⑥ ドロップボール
ボールが直接ゴールに入ったとき、ゴールキックかコーナーキックが与えられる。
- ⑦ 得点の方法
 - ・ 得点の前に交代要員の不正入場があった場合、キックオフ前に判明すれば得点が認められず、その交代要員は警告され、フリーキックが相手に与えられる（キックオフ後に判明した場合は、懲戒の罰則のみ）。
 - ・ 両チームが同点または共に無得点の場合、試合は引き分け。また、勝利を決定する方法のひとつにアウェーゴール・ルールの採用も可能。これまでは、引き分けという終了はなく、必ず延長戦、ペナルティーマークからのキックが行われていた。
- ⑧ 第12条 ファウルと不正行為
 - ・ これまでは11条として規定されていた（11条は「オフサイド」の項として、“ビーチサッカーにオフサイドはない”と明記される）。
 - ・ サッカーで直接フリーキックに値するところと同様の反則は、7+3項目（ただし、“相手を押さえる”の項目に、“シザースキック、オーバヘッドキックを妨げる”、“つばを吐く”、）または“意図的に砂を投げる”の表現が追記されている）。
 - ・ 警告となる反則を、7項目と規定した。

2. フットサル競技規則と同様の適用を図る

- ① 最小競技者数
試合開始時から試合終了まで3人。
- ② 交代要員の数
国際Aマッチにおいては、最大10名までの交代要員を置くことができる。
- ③ 交代の進め方
交代要員は、交代で退く競技者にビブスを渡す（これまでは、退く競技者の番号を表示して行っていた。）。
- ④ リザーブ副審及び副審
 - ・ リザーブ副審が任命される場合の役割と義務は競技規則の諸規定による（第5条）。
 - ・ 副審（第3審判、タイムキーパー）について第6条に明文化すると共に、職権と任務について規定（第6条）。
- ⑤ ピリオドの終了
タイムキーパーは、ピリオド（フットサルは“ハーフ”）の終了を音によるシグナルで示し、主審・第2審判が終了の判断を行って、笛を吹いてピリオド等の終了を告げる。

- ⑥ 屋内のピッチ
天井高は4 m以上で、ボールが天井に当たった場合、相手チームによって行われるボールインバウンドで試合を再開する。
- ⑦ 交代要員が相手の得点または決定的な得点の機会を阻止した場合、退場が命じられる。
- ⑧ 4秒ルールの適用（これまでは、5秒）
フリーキック、ボールインバウンド、ゴールクリアランス、コーナーキック、競技者が自分たちのペナルティーエリア内で4秒を超えてボールをコントロールする（ただし、GKのみならず、フィールドプレーヤーであっても）。
* これまで、これらプレーの再開は5秒以内に行えばよかったが、スピーディーなビーチサッカーを求め、フットサルと同じく4秒以内に行わなければならないとした。
- ⑨ ボールインバウンド
ボールインバウンドからボールがピッチに入らなかった場合、相手チームのボールインバウンドとなる。
- ⑩ 仮想のペナルティーマークからのキック
* これまでは、最初の1本からサドンデスで行われていたが、まずは各チーム3本ずつのキックを行い、その後サドンデスとした。

2. ビーチサッカーの特徴をより引き出す

- ① ピッチのマーキング
 - ・ 交代ゾーンを示すマークをハーフウェーラインから左右それぞれ2.5 mの位置でベンチ側タッチライン上にマークを描く。
 - ・ キックオフのときに守らなければならない最小の距離を示すため、ハーフウェーラインから左右5 mの位置でベンチの逆サイドのタッチライン上にマークを描く。
 - * タッチラインやゴールラインは青のテープで描かれるので、青と対照的な色のテープ（例えば白）でマークすることになる。
- ② キックオフの進め方
ボールが前方にけられたときに加え、これまでも慣習的に認められていた、“ボールは後方にプレーされた直後、砂に触れる前にキックオフを行った競技者の味方競技者によって空中で前方にけられたとき”もインプレーとなることが明記された。
- ③ 勝利ポイント
リーグの試合でのポイントが、3ピリオド終了での勝利＝3、延長戦終了の勝利＝2、仮想のペナルティーマークからのキックでの勝利＝1と明記された。
- ④ ペナルティーキックとなるファウル
フリーキックの進行中に、ボールがゴールポスト、クロスバー、ゴールキーパーまたは砂に触れる前に、守備側競技者がフリーキックの位置と両コーナーフラッグの間のペナルティーエリア内にあるボールに触れた場合もペナルティーキックが与えられる。
- ⑤ フリーキックとなるファウル
 - ・ ゴールキーパーがボールを自分のペナルティーエリアの外でプレーしたのち、自分のペナルティーエリア内に戻り、体のいかなる部位であってもボールをプレーする（触れる）。
 - ・ ゴールキーパーが保持していたボールを放したのち、自分のペナルティーエリア内で再び手でボールに触れる。この間に他の競技者がボールに触れる場合を除く。

* これまでは、ゴールキーパーがペナルティーエリア外でボールをプレーしたのち、再びエリア内に戻っても、手や腕でなければ、ボールをプレーすることができたが、この改正により体のどの部位でもボールに触れることができなくなった。

また、これまでは、5秒以内であれば、ボールをリリースしても、再びボールを手で触れることができたが、新しくは手で触れることができなくなった。これらにより、ゴールキーパーのプレーへの依存を小さくし、よりフィールドでのプレーを促すことになり、またゴールキーパーのところでプレーが遅延されないスピーディーなビーチサッカーのプレーが展開されるようになった。

⑥ 退場となる反則

相手競技者がフリーキックを行う場所と自分のチームのゴールポストの間のエリアで、ボールがゴールポスト、クロスバー、ゴールキーパーまたは砂に触れる前に、ボールに触れる。

* 攻撃されるゴールとは反対のハーフでフリーキックが行われるとき、キッカーと守備側ゴールキーパーを除き、すべての競技者はボールと両コーナーポストで囲まれるエリア外にいないなければならない。それにもかかわらず、フリーキックを行う場所とゴールポストの間のエリアに守備側競技者が侵入してボールをプレーしたならば、退場が命じられることになった。

⑦ シザーズキック、オーバーヘッドキック

シザーズキック、オーバーヘッドキックを行う競技者に、またその競技者がプレーしようとしているボールに相手競技者が触れた場合、フリーキックまたはペナルティーキックが与えられる。

* シザーズキックやオーバーヘッドキックはスペクタクルで、ビーチサッカーにとって、重要なプレーであり、それを保障して、ビーチサッカーの魅力をより高めることができることとなる。

⑧ フリーキックの位置

反則を犯していないチームのハーフまたは仮想のハーフウェーライン中央の仮想地点から行われるフリーキックの場合、(守備側ゴールキーパーを除く)守備側競技者とキックを行う競技者の味方競技者は、ボールがインプレーになるまで、ボールとコーナーフラッグの間の仮想エリアの外にいないなければならない(かつ、守備側競技者は、ボールから5m以上離れなければならない)。

* これまで、この仮想エリアはボールと両ゴールポストで囲まれたエリアであったが、ポスト周辺であまりに多くの反則、小競り合いが犯されていたことから、これをボールと両コーナーフラッグで囲まれたエリアとしエリア侵入のメリットを低くした。これにより、反則や小競り合いを少なくし、フェアでクリーンなビーチサッカーを目指す。

⑨ ペナルティーエリア内からのフリーキック

守備側チームがそのチームのペナルティーエリアからフリーキックを行ったが、ボールが直接エリアから出なかった場合、キックを再び行う。

* これまでは、ペナルティーエリア内からでもボールはキックされるとその場でインプレーとなっていたが、ゴールクリアランスとも整合性をとり、ペナルティーエリア内から出て初めてインプレーになるとした。